

稲門やま

発行所 早稲田大学大和稲門会
 発行人 会長 宮崎 顕
 事務局長 小澤 重晴
 〒242-0007 大和中央林間 2-16-35
 TEL・FAX 046-276-8841
 編集人 児浦義文、小澤重晴、村岡猛、加藤晴夫

早稲田大学大和稲門会会報第44号

会長挨拶

宮崎 顕 (S42 法学部)

☆☆☆ 大和稲門会の皆さん、こんにちは。お元気ですか ☆☆☆



新型コロナの感染者が全国的にも、そして神奈川県内でも、地元大和市内でも非常に増加しております。

私は現在大和市のシニア連合会(旧老人会)の副会長もしておりますが、稲門会同様に各種イベント(春・秋の旅行、春・秋の演芸大会、秋のスポーツ大会等々)が軒並みに中止となりました。会員が高齢者ばかりなので仕方ないのですが。

稲門会活動に目を向けてみますと、大学からの活動自粛要請により多くの県支部行事、そして大和稲門会の行事もその多くが中止に追い込まれています。現在のコロナ感染の情勢下ではいたしかたないのかなとも思います。

一方、ワクチンの接種が加速しており、既に接種を済ませている方が多いと思います。早く感染が収束し、稲門会活動が正常に戻ることを願っています。

さて、コロナ禍での会報「稲門やまと第44号」の発行を心配しましたが、編集委員のご努力で、より広い会員に投稿を呼び掛けてみたり、新たに「川柳」を募集したりと、いろいろな企画を練っていただき、この度発行の運びとなりました。是非お楽しみ下さい。

コロナ感染に関しては、まだまだ大変な状況がつづくと思いますが、どうぞ皆さんご自愛ください。

事務局便り (2021年4月～9月)

事務局より

◇2021年4月～9月に行われた行事・イベントは次の通りです。

- R3.04.01 「稲門やまと第43号」の発行
 - R3.05.06 役員会開催 (Zoom会議)
 - R3.05.20 「早慶懇親コンペ」開催 (本厚木CC, 本コース)
 - R3.06.04 「春のハイキング」開催 (生田緑地)
 - R3.07.30 役員会開催 (シリウス6F)
 - R3.4月～7月 稲門祭記念グッズの販売 (9人、合計6万円)
 - R3.09.21 役員会開催 (シリウス6F)
- (予定していたその他の行事・イベント、同好会活動は自粛しました。)

◇今後の予定行事

- R3.10.24 ホームカミングデイ&稲門祭 (リモート開催)
- R3.11.30 秋のゴルフコンペ開催 (本厚木CC, 本コース)
- R3.11月 大和稲門会第28回 (2021年度) 総会、書面決議
- R3.11月 秋のハイキング

春のハイキングの報告

児浦義文

小田急向カ丘遊園～生田緑地散策(2021年6月8日)



満開の菖蒲園



菖蒲園内での記念写真

「2021年春のハイキング」は川崎市多摩区にある生田緑地を訪問しました。生田緑地東口ビジターセンターからスタート、先ず見頃を迎えていた「菖蒲園」を散策し、次に「日本民家園」を見学しました。ここは、主として江戸時代に建てられた東日本を代表する古民家25棟を川崎市が移設再建したもので、内8棟は国の重要文化財に指定され、まさに野外博物館となっています。展示されている民家は宿屋、油屋、庄屋等の大きな民家群、信州の合掌造り群、関東の村の豪農家等です。

昼食は合掌造りの古民家内に設けられた「白川郷そば処」で「戸隠蕎麦」をいただく。昼食後は「岡本太郎美術館」に入館。当日は常設展に加えて企画展「岡本太郎展」を開催中。岡本太郎は自らの力で新しい芸術の創造に挑戦し、独特の絵風を生み出し、壁画、彫刻、家具・日用品などあらゆるジャンルに挑戦した巨匠です。

大阪万博で有名な「太陽の塔」を代表作とするパブリックアートを日本各地に設置したという。見ごたえのある多くの作品を観賞でき、一同感激でした。

鑑賞後、美術館内の「カフェ」で参加者一同は懇談し交流を深めました。我が国の古民家群、癒しの菖蒲園、岡本太郎の芸術に触れ、久しぶりに稲門会の皆さんと対面での会話を楽しみ一同満足の日でした。



日本民家園での記念写真



岡本太郎美術館

<参加者> 石川、岩本、水野、小澤、渡辺、佐竹、上原(ゲスト)、児浦(幹事)(合計8名)

新ホームページ、10月よりスタート

新HP立上げチーム

ホームページ更新作業は、目下最終作業に入っており10月にはスタートできる見込みです。メニュー構成を見直し、ホームや活動報告ページを刷新し、また会員専用ページを設けるなど、より充実した内容を目指しています。

1. 新ホームページはパソコン、タブレット及びスマホで閲覧できます。
2. 新ホームページ完成後暫くは、従来のホームページの閲覧も可能です。
しかし従来のホームページは掲載情報の更新を停止しますので、最新情報を観るには新ホームページを閲覧していただくことになります。
3. 最終作業が終わり次第、皆様には「新ホームページ完成のお知らせ」をお届け致します。

新ホームページに関するご質問は下記の「ホームページ立上げチーム」まで連絡下さい。

小澤重晴(チーフ)、児浦義文、村岡猛、加藤晴夫

会員からの投稿コーナ

クレオパトラの鼻

土橋仁志 (S46 理工卒)

一年延期となった「東京オリンピック 2020」も日本は過去最多の58個のメダルを獲得して閉会した。そのオリンピックをテレビで観戦する度に思い出すことがある。前回1964年の東京オリンピックである。

当時私は中央林間から二時間弱かけて、西武新宿線沿線の上石神井にある付属の高等学院に通っていて、当時二学年であった。学院は大学との一貫教育であるため、ユニークな授業が多くあった。そのことは後で触れるとして、オリンピック開会一週間前の国立競技場でのリハーサルに学院の生徒も参加することになり、大勢の仲間と共に国立競技場の観客席に入場できる経験をした。

リハーサルの内容は記憶が飛んでしまったが、何故か電光掲示板に「Paris」の文字が浮かんでいたことだけは覚えている。学院では第二外国語はドイツ語を選択したため、パリの表記を知らず、不思議に思ったからかも知れない。

さて開会式まであと三日となった日に、体育の授業でサッカーをしていて、右足の膝上を骨折し

てしまった。学院の近くに整形外科医院があり、検査の結果即入院となった。そのような訳で、楽しみにしていた本番のオリンピックは観戦できず、残念な思い出となった。

ここで学院時代の授業の話に戻ると、石丸久先生の現代文学の時間は楽しみだった。先生が書かれた副教材の中に、龍胆寺雄著作「アパートの女たちと僕と」が紹介されていた。実は龍胆寺家と我が家は道を挟んで隣同士で、祖父母の時代から長く今も親しくさせて頂いている。私が小さい頃から作家の傍らサボテン栽培で有名なお宅であったが、授業で初めて偉大な作家であることを知った。

先生の名前を思い出せないが、西洋史の授業も大変おもしろかった。パスカルが「パンセ」に記した例の「クレオパトラの鼻がもう少し低かったら、世界の歴史は…」は先生によれば「もう少し高かったら…」が正しいとのことである。西洋では鼻の高い魔女の絵を見て分かるように、鼻が低い方が美人であるからである。この興味をそそる授業に骨折で出席できなかったことは、オリンピック以上に残念な思いをしている。

街道独り歩き

杉山 充 (S41 一法卒)



50代の半ば頃から山登りに夢中になっていましたが、オフシーズンのトレーニングとして始めたのが街道歩きでした。最初に歩いたのは中山道ですが、五街道の中でも多くの山のトレーニングに向いているかな…と、思ったから

でした。

最初は、テントを担いでの独り歩きを考えましたが、テントを張る場所もなかなか難しく、計画を立てるのも大変なのでクラブツーリズムのツアーに参加、完歩までに3年3ヵ月かかりました。この中山道を歩いたことから街道歩きにはまり込み、甲州街道、川越街道と続いた頃には、山のためのトレーニングではなく、街道歩きが趣味とな

り、次第に山行回数は減っていきました。そして“街道独り歩き”が始まりました。

私にとっての街道独り歩きの魅力は“おまけ付きグリコ”のようなもので、一度で三度楽しめることでした。一つ目は、歩くコースの確認と立ち寄り場所の下調べをする楽しみ、二つ目は実際に歩き、見て写真を撮る楽しみ、そして三つ目はその写真を整理し、歩行記録を作成する楽しみです。それと、経費が格段に安く済むという大きなメリット…ツアー参加の大体1/4程度ではないでしょうか？

また、天気が悪ければ行かないし、嫌になったらやめればいい…独り歩きの特権です。そのため、宿泊は行き当たりばつりの安宿探し、事前予約は一度もしませんでした。

今まで歩いた街道は、五街道（東海道(53次、

57次、佐屋街道、姫街道)、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道)、伊勢街道、川越街道、大山街道(矢倉沢往還、柏尾通り大山道)、中原街道です。まだまだ歩きたい街道は沢山ありました

が、残念ながら体調が芳しくなく、長い距離の歩行が無理になってしまいましたので街道歩きはあきらめ、これからはノンビリと城廻りでもしようかと考えています。目指せ100名城登城です。

風工学を研究しています 田村幸雄 (S44 理工卒)

学部卒業後、大学院、建築構造設計事務所を経て、36歳から定年まで厚木にある東京工芸大学に勤務し、現在は専任として、重慶大学・風工学環境資源研究センターの顧問センター長を務めております。

学部時代が楽しくなかった訳ではありませんが、人生の中で一番楽しかったのは、何と言っても福岡市での高校時代です。大学院では、気が違ったように、1秒を惜しんで勉強しました。専門は「風工学(かぜこうがく)」で、建物の耐風設計や強風防災の研究に従事してきました。

日本では、超高層建物やスタジアムなどで「風圧力」が重要になりますが、通常の建物は「地震力」で設計が決まり、「地震工学」は知られていますが、「風工学」という用語は馴染みが薄いようです。諸外国では逆に風圧力で設計が決まる建物が多く、国際風工学会 IAWE という組織には、98もの国と地域から研究者が参加しております。欧米主導の組織ではありますが、偶々2007年から8年間、その会長を務めたせいもあって、現在、海外の20程度の大学で名誉教授や顧問教授に就いております。

定年制が厳しいのは日本だけのようです。コロナ以前は、月のうち3/4は海外で過ごしてきましたが、この1年半は日本に居り、講義やセミナー、学生指導や研究打合せ、国際会議や集会など全てオンラインです。お陰様で、以前の膨大な移動時間がまったくなくなり、肉体的にはすごく楽をしていますし、時間的な余裕は幸せ感をももたらしています。

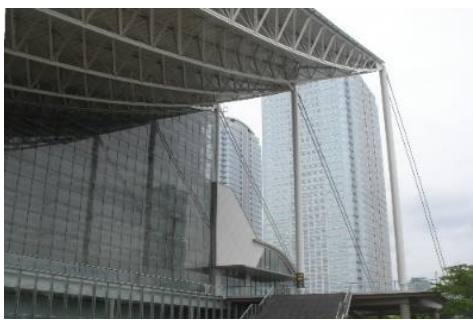
大和市のお陰でワクチン接種も終わりましたので、孫達とも会えるようになりました。とは言え、コロナの終息は切に願うところで、そこは人類の叡智に期待しております。

「風工学」の環境分野では、室内気流や人体周りの流れ、汚染物拡散なども扱います。昨日あった会議では、従来思われていた手指からの接触感染よりは、鼻や口からの吸気感染の影響の方が著しいとの報告がありました。皆さん、必ずマスクを着用しましょう！

(添付の写真は私が関係した建物の一部です。)



平安国際金融中心
600m (深圳)



幕張 メッセ北ホール



東京スカイツリー
(634m)

保育園創立のころ 古木敏幸 (S48 政経卒)

入学した昭和44年は全共闘運動が荒れに荒れ東大入試も中止となった年でした。在学期間中も授業どころではないと言った不安と焦慮の入り混じった、混沌とした雰囲気、早稲田全体が在った気がします。ベトナム戦争の米国(「米帝」と私たちは蔑称していた)敗退局面情勢や沖縄返還と日米安保の継続問題、それに三島由紀夫の割腹事件など時代背景もそのような雰囲気を醸成していたやもしれません。お蔭で学

年末試験は二回年度行えず、卒業式も中止となる惨状を政経学部は呈する状態に陥りました。

結果、学業薄弱のまま実社会に出ることとなりました。また、授業のある時も授業其方退けで一知半解の左翼思想や実存哲学思想に学友と口角泡を飛ばすこと頻りでした。その際『三太郎の日記』などを語ろうとすると「古木は幼稚極まりない」と即座に非難を被る風気でした。その幼稚故にと申せましょうか、社福としての保育園を創立したのは卒業三十年余後の事です。銀行在職中の後半、国家と教育とを真剣に考えなくては、との思いを深め居りました。国際金融は自国を存分に語れぬものが担任してはならぬとの失敗経験が背後にありました。そして国家とは、について某国に出張してあるとき忽然自分なりの解が拓けたのです。それは、国家が在って個の存在が保障される。併せて国家の自立と品位はその国民の人格的自立と品位に依って決まる、即時にその逆も真。また国家は人倫を介して個を基とする、然れば教育こそ一大事というものでした。こうしたことが保育園創立の機縁です。



早春の丹沢-園児ら共に

教育は生誕直後の乳幼児教育に始まります。この時期のしくじりは長く向後に及びます。それ故欺瞞は許されぬ、との自戒を胸に園運営に勤しむところです。どうぞ稲門諸兄姉の十六山保育園(中央林間)にご来園あれ。そして園児や職員にご厚誼を賜れば幸甚に存じます。

8月は悲しい月

清水 美加子 (S52 教育卒)

三年ほど前からカルチャーセンターで短歌の講義を受けています。講師の先生は早稲田の文学部を出た方で、現在は高校の教頭先生をなさっています。私と同世代の方ですが、ひと月に二首提出し、いろいろ教えて頂いております。小学生の時にオリンピックの短歌を作る宿題を出されました。褒められた記憶もなく、それっきり短歌など詠んだ事はありませんでした。今回の東京オリンピックは一応無事終了なのでしょうか。これは二年前に詠んだ歌です。

アベベを観た円谷を観た子供には マラソンの続きは悲しいお話し

小学生の私はマラソンコースの近くに住んでいたため、二人のランナーを観ています。その後大学の体育の講義で、織田幹雄先生から円谷選手の事をお聞きしました。あの時代、日の丸を背負い、お父様の言葉「決して後ろを振り向くな！」を胸に走った、生真面目な若者の悲しみが辛いです。パラリンピックも始まるようですが、こちらは、ハンディキャップを持つ方々に対しての私たちの意識を変えてくれる良い機会だと思います。この超高齢化社会も一役買ってくれているような気がします。誰もが長く生きていけば、どこか具合が悪くなっていきます。もちろん、私もそうです。

小学一年の時からの子供のKちゃんにはハンディキャップがありました。彼女は23歳で亡くなりました。歌を創るようになってから、何故かしきりに彼女を思い出します。

メリーポピンズを教えてくれたKちゃんは 傘を持たずにビルから飛んだ
Kちゃんに好かれるような世の中に やっとちょっぴり近づいてきた

また、八月は終戦記念日のある月なので、戦争の短歌をと思うのですが、体験していないので難しいです。父が元軍人だったので、

命令でこんな子切ってしまったよ 父は十二の甥を指差す
上官は右利きの筈 父親の左の鼓膜は破れていました
干し芋を嫌いと言えば「贅沢だ」 大人はみんな戦争を知る

暗い歌ばかりになりましたので、最後は初恋、夏の歌です。

初恋のかたみの白き巻貝は 夏の日抱き引出しの底

ボケ防止に朗読の勧め 石川公弘 (S32 商学部卒)

政府の発表によると、2025年には日本国民の5人に一人、700万人がこの病気に悩むことになるらしい。湘南高校28回生の秀才中の秀才、ノーベル賞の根岸英一博士も、晩年ボケに悩まされていた。どんな秀才でもこの認知症という病気に襲ってくる。私はこの政府発表もあり、敬愛する同級生・根岸英一博士の事例もあって、自分自身を含めこの病気から多くの年配者を如何に守るかを真剣に考えるようになった。これは国民的課題なのだ。しかも遠い将来の話でなく事態は切迫している。

生活習慣病から痴ほう症に至るケース

痴ほう症に何故なるのか。一つには、生活習慣病から痴呆に至る道がある。そのなかでも、最も脳によくないのが糖尿病である。糖尿病が悪化すると動脈硬化が進み、脳卒中や虚血性心疾患になる。生活習慣病の中でも、人生を左右する最大の曲者である。人間の身体は、エネルギー源であるブドウ糖を血液から細胞に取り込む際、インスリンというホルモンの助けを必要とする。食事をすると、血糖値(血液中のブドウ糖濃度)は一時的に高くなるが、インスリンによってブドウ糖を細胞に吸収、健康人なら血糖値は元へ戻る。

ところが糖尿病になると、インスリンの分泌や効きが悪くなる。そのため糖をうまく細胞に取り込めなくなり、血液中に糖があふれてしまう。脳の神経細胞も糖をうまく吸収できなくなって機能不全に陥る。すると神経ネットワークもガス欠状態になる。また、効が悪くなった分を補おうと、インスリンがたくさん分泌される。それに伴い、アミロイドβというたんぱく質が脳の神経細胞に沈着するという報告がある。このアミロイドβこそ、アルツハイマー病を引き起こす物質なのである。痴ほう症退治には、まず生活習慣病からの脱却、特に糖尿病という曲者を退治しよう。

意識面の低下から痴ほう症に至るケース

人間は抽象的に言えば、頭脳、感情、肉体の三つから成る存在である。どの一つが劣化し、バランスを欠いてもいけない。石原慎太郎の著書を読んでいたら、国の安全保障などを声高に論じていた論理的水準の非常に高い人が、肉体の健康を病んで自殺へ追い込まれたとの話があった。最愛の人を失って、その精神の寂しさに耐えられず、死んでいった有名な作家の話もあった。人間の生命を正常に維持するには、頭脳、感情、肉体の三つがバランスよく強固に保たれることが必要なのである。人間はやる気を失うと、簡単にこのバランスが崩れるという。

朗読が痴ほう症を予防すると聞いて調べてみた

先日、ふとした機会に私も次の誕生日が来ると米寿、即ち88歳になることに気づいた。100歳まであと12年しかない。今のところ身体に重大な欠陥がないから、あつという間に100歳まで生きるだろう。台湾少年工だった皆さんとの交流も一段落し、次の世代にバトンタッチが終わった。何をして100歳まで生きるのか。そこで浮かんだのが、「呆けずに100まで、理念と実践」という言葉だった。よし、これを100までのライフワークにしよう。後半の言葉はいか様にも使える。台湾関係では、「呆けずに100まで、日台交流」、同年輩の友人たちには、「呆けずに100まで、共に生きよう」。

やがては予防薬も治療薬も開発されるだろうが、それまでどう呆けずにしのぐかが問題である。早速、この問題で本を読んだり専門家の話を聴いたりしたが、比較的簡単でやる気さえあれば誰にも出来る方法を知った。それは朗読である。本や新聞を一日一回、声を出して感情をこめて読むのである。それがどうして認知症を予防するのか。カラクリを私流に説明する。

無読	頭脳の動き0	
黙読	頭脳の動き1倍	目が読むので脳が活動する
音読	頭脳の動き2倍	目で読み耳で聞く、脳は2倍働く
朗読	頭脳の動き2倍	2倍働く脳に加え感情が豊かに働く 肉体(肺と声帯)も働く

即ち朗読は、頭脳、感情、肉体の三つを働かせ鍛えらるると考えられる。

北海道大学には、そのまま何もしなかつたら痴呆になる人が、朗読によって健康を回復したり維持したりする研究成果があるという。先日も、私の住む大和市にある演劇大和塾で朗読劇の練習があるというので数回にわたり見学したが、全く上の考察を裏付けるものだった。みんなワイワイと相互に批判したり意見

を述べたりしながら、極めて楽しそうだった。これでは、呆けていられないと思った。先日も、泉の森の林の中で最後の録音が行われたが(写真参照)、その声は周囲のせみ時雨を圧していた。



練習の成果は、コロナ禍なので、演劇大和塾のホームページに発表するという。期間は9月12日から10月11日まで。ぜひ、覗いてほしいものである。

コロナ禍の稲門やまと素人川柳

初めての試みとして、コロナ禍にまつわる川柳を会員より募集いたしましたところ、9名42句の応募が集まりました。編集委員会で各応募者2句を選定しましたので披露いたします。

1	夏畑赤いトマトにご挨拶	遠藤 廣
2	散歩にも頼れるものは杖一本	同上
3	注目のコロナ銘柄デルタ株	小澤重晴
4	巣ごもりは居間で寝ころびテレビ漬け	同上
5	来客に慌ててマスク取りに行く	兎浦義文
6	自宅放置自宅療養と国はいう	同上
7	古希過ぎて今日も元気にアルバイト	関根 実
8	コロナ禍で好きなカラオケお手上げに	同上
9	やれワクチンオリパラ輪をかけ火の車	瀧本幸男
10	無観客音だけ響く競技場	同上
11	コロナ禍で明日は死ぬかと無駄遣い	菟場直一
12	ワクチンで老後の心配またはじめ	同上
13	汗滂沱スーパーまでの上り坂	水野昂子
14	酷暑時にひたすら眠るネコと犬	同上
15	チャンネルを替えても替えてもまたコロナ	村岡 猛
16	パソコンのキー打ちだけは上達す	同上
17	コロナ禍で運動しても腹が出る	渡辺伸明
18	女房の「あれ」の理解が上達し	同上

会 計 便 り

児浦義文(会計担当)

1 年会費納入についてのお願い

- ・ 10月より令和3年度が始まりました。下記(A)令和3年度分(今年度)まで会費を納入いただいている方を除き新年度の会費の納入をお願い致します。(下記(B)の方ならびに記載のない方)
- ・ 会費納入につきましては、郵貯銀行振込票を同封しておりますので振込票をご活用ください。銀行振込の場合は下記口座に振込下さい。

横浜銀行 中央林間支店普通預金口座 口座番号 1155943

2 年会費について

- ・ 年会費は令和3年度からは5千円とさせていただきます。(令和2年度より年会費を3千円から5千円に引き上げさせていただく予定にしておりましたが、コロナ感染症の影響から当会の主要な行事は自粛致しましたため、令和3年度からの引上げといたしました。)
- ・ すでに令和2年度分会費として5千円納入戴いた方につきましては3年度分の会費納入の際、差額調整させていただきます(本来5千円の会費を3千円とします)。差額調整対象者は名前の頭に●表示

3 未納会員等の皆様へ

令和元年度まで納入戴いている会員の皆様には令和2、3年度分の会費の納入をお願いいたします。

それ以外の方は2か年以上会費が未納となっておりますので速やかに納入戴きたくお願い致します。

4 会費納入についてのお問合せ等は、会計担当の児浦までご連絡ください。

会計担当 児浦義文 電話番号 046-274-0628 携帯 090-9333-4479

Eメール koura0114@jcom.home.ne.jp

(A) 令和3年度分(今年度)まで会費を納入いただいている方(4年度以降分も含む)。

大澤 善勝 加藤 裕之 國方 隆 ●小坂 悟 小島 達之 柴田 哲也 清水美加子
菅谷正一郎 関根 実 瀧本 幸男●土橋 仁志 菟場 直一 古木 敏幸 橘川 泰一
中西 剛 ●田村 幸雄 (以上16名)

(B) 令和2年度分までの会費をいただいている方。

●中 晃 石川 公弘 石井 稔夫 岩本 武夫 遠藤 廣 遠藤三紀夫●大澤 孝征
加藤 敬一 児浦 義文 小林美佐子●佐藤 逸郎 鈴木 信義●高田 博 中丸 敬治
保坂 保 町田 浩文 眞鍋 藤正●水野 昂子●宮崎 颯 ●村岡 猛 遊佐 喜弘
横澤 和信 渡辺 伸明 小澤 重晴 加藤 晴夫 杉山 充 ●池田健三郎 ●小林 晃
田中 政弘 佐竹育子 以上30名

***** 「編集後記」 *****

この度、「稲門やまと第44号」を発行する運びとなりました。前号同様、当会の殆どの活動が中止を余儀なくされる中で、普段接触の機会の少ない会員の皆様に投稿をお願いし、5名の方々に投稿いただきました。また、新たな試みとして「コロナ禍の稲門やまと素人川柳」を企画し、多くの投句をいただきました。

10月より新ホームページ(HP)もスタートします。この会報とHPの二本柱により会のPRと会員の皆様の交流がより一層図れることを期待しております。

(編集委員一同)